

平成30年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立信夫第一小学校長

平成30年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語と算数と理科の3教科を実施しました。

国語と算数の2教科については、主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」に分けて実施しました。理科は、主として知識に関する問題と、主として活用に関する問題をあわせて実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語A	70.7%	○				
国語B	54.7%	○				
算数A	63.5%	○				
算数B	51.5%	○				
理科	60.3%	○				

【国語A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	90.8%	○				
書くこと	73.8%	○				
読むこと	74.0%	○				
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.0%		○			

【考 察】

- 日常生活で使われる慣用句の意味を正しく理解できていますが、その使い方については、十分とはいえません。今後、慣用句等の伝統的な表現を用いて表現できるよう指導を工夫していきます。
- 話や文の続き方の適否を問う問題に課題が見られました。主語と述語を正しくつなげて書くことや、意図が伝わるように文の続き方を考えて書く活動を工夫していきます。
- 相手や目的に応じて敬語を用いる問題に課題が見られました。尊敬語や謙譲語などの使い分けを日常生活の中で活用できるよう工夫していきます。

【国語B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	64.6%	○				
書くこと	45.6%	○				
読むこと	50.8%	○				

【考 察】

- 話合いの文脈に沿って、自分の考えを整理して書く問題に課題が見られました。話合いの中で述べられているそれぞれの立場の意見を適切に引用しながら、自分の考えをまとめる活動を工夫していきます。
- テーマに基づき、そのテーマに沿った根拠を例の中から選んで、読み手に伝わりやすく書く問題に課題が見られました。また、意見とその根拠の関係を筋道立てて考えて書く問題にも課題が見られました。今後、引用する内容を文字数などの条件に合わせて分かりやすく書く活動を多く取り入れるとともに、主語と述語の正しいつながりや適切な修飾・被修飾の関係、文と文の続き方を考えて書く活動を他教科の学習でも取り入れていきます。

【算数A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	62.3%	○				
量と測定	72.7%					○
図形	56.9%	○				
数量関係	60.1%	○				

【考察】

- 円の中心角の大きさを読み取る問題では、日頃から作図や分度器を用いた操作活動を十分に積み重ねてきたことから、高い正答率が得られました。
- 単位量あたりの大きさの問題では、単位量を求めようとするときに適切な単位で示された数値を用いることを、同様な問題を解きながら理解を深められるよう工夫していきます。
- わる数が1より小さい場合または大きい場合の、わられる数と商の関係について理解が不十分な面が見られました。今後、基準量と比較量を的確にとらえ適切に立式することも踏まえながら、わり算の性質を意識した指導の工夫をしていきます。
- 直径の長さと円周の長さの関係や円周率の意味とその求め方について説明をすることに課題が見られました。図形などの学習においては、操作活動等を多く取り入れ体験的に学べるよう指導を工夫していきます。

【算数B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	58.4%	○				
量と測定	52.4%	○				
図形	59.9%	○				
数量関係	45.1%	○				

【考察】

- グラフから読み取った数値について、どのような観点を根拠として読み、判断しているのか説明する問題に課題が見られました。今後、他の教科においてもグラフなどを用いながら、事象を多面的にとらえる見方や考え方を育成できるよう工夫していきます。
- 複数の条件に基づいて問題を解決する過程において、四則演算などを適切に用いることに課題が見られました。今後、複雑な問題場面を整理して、四則演算の混じった式や括弧を用いた式について、それらを適切に使用しながら、求める問題を解く活動を継続的に取り入れるよう工夫していきます。
- 正多角形が敷き詰められた図において、正多角形の性質を活用して角の大きさを求める場合の求め方を説明する問題に課題が見られました。今後、図形などの学習においては、操作活動等をさらに多く取り入れ体験的に学べるよう指導を工夫していきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
物質	59.8%	○				
エネルギー	53.1%	○				
生命	73.6%	○				
地球	49.5%	○				

【考察】

- 生き物と人の骨のつくりを比べた観察文から必要な情報を取り出したり、各部位の名称を答えたりする問題については、身近な生活を生かした学習により正答率が高かったようです。
- 川の水のはたらきによる侵食作用では、水量によって土地の変化の様子が異なる理由について実験結果をもとに考察する問題や、他にも観察・実験の結果から考察し、結論を導くための根拠を説明する問題に課題が見られました。今後、流水実験など実験を効果的に繰り返す場を工夫するとともに、実験の様子を表す図や結果のグラフを適切に作成し、観察力や結果に対する考察力を養うよう指導を工夫していきます。